

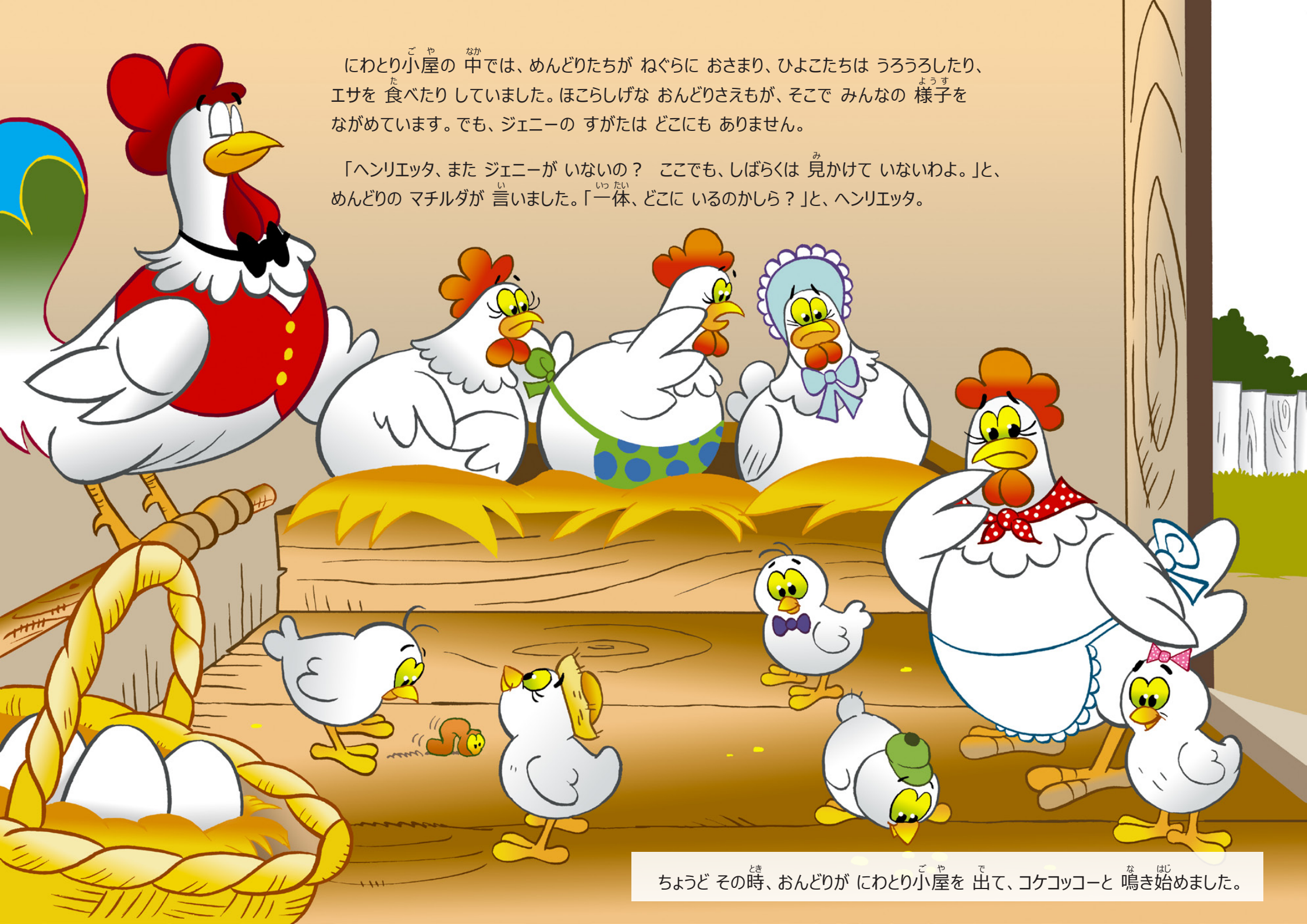
ジェニー、^{きょうくん}教訓を^{まな}学ぶ



「あの子^こったら、今^{こん}度はどこに^い行ってしまったのかしら？
うろうろしてばかり いるんだから。またトラブルに^ま巻きこまれて
ないと いいんだけど。」めんどりの ヘンリエッタは コッコツと
鳴^なきながら、ひよこの ジェニーを さがしに^で 出かけました。

にわとり小屋の^{ごや}中^{なか}では、めんどりたちが ねぐらに おさまり、ひよこたちは うろうろしたり、エサを^た 食べたり していました。ほこらしげな おんどりさえもが、そこで みんなの^{ようす} 様子を ながめています。でも、ジェニーの すがたは どこにも ありません。

「ヘンリエッタ、また ジェニーが いないの？ ここでも、しばらくは ^み見かけて いないわよ。」と、めんどりの マチルダが ^い言いました。「^{いつ}一体、どこに いるのかしら？」と、ヘンリエッタ。

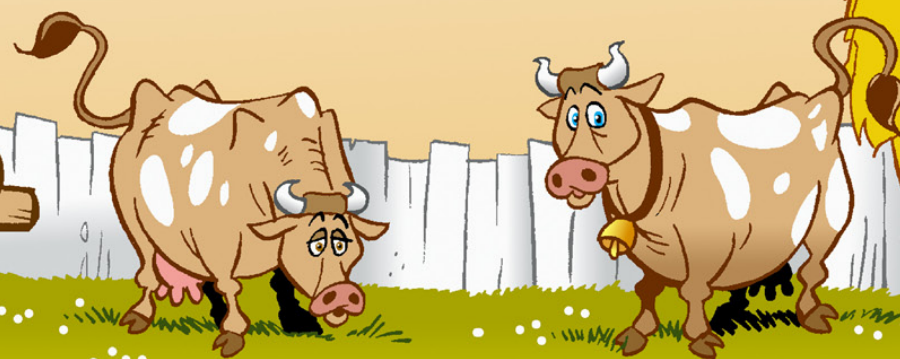


ちょうど その^{とき}時、おんどりが にわとり小屋^{ごや}を 出^でて、コケコッコーと ^な鳴^{はじ}き始めました。



コケコッコー！

のうじょう 農場の はしっこでは、ひよこの ジェニーが おんどりを
ながめて いました。（また おんどりさんが 鳴いてるわ！
まい あさ まい あさ まった 毎朝毎朝、全く おんなじなんだから！ この 辺りじゃあ、
おも しろ 面白い ことが なんにも ないわ。自分 で 見つけに
い 行くしか ないわね。）



ジェニーは、のうじょう 農場を かに 囲っている ふる き 木の さくに む 向かって
はし はじ 走り始めました。さくの 外へ 冒険に 出かけようと 思ったのです。

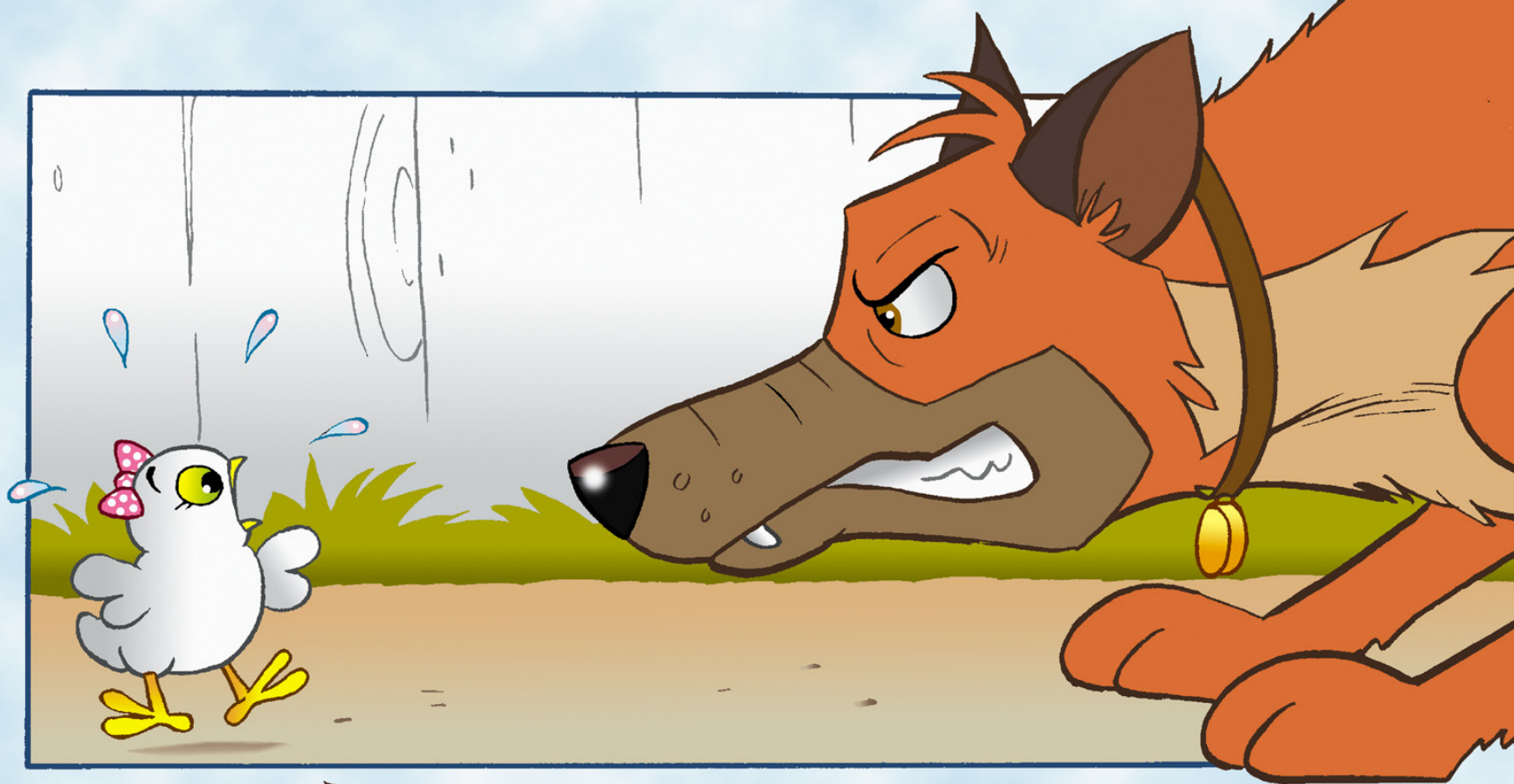
ウウーッ！

ジェニーはびっくりして飛び
上がりました。見上げると、
農場の犬、ハンターです。

ハンターは、ほえたり うなったり
しました。ジェニーは今までに
ハンターをおこらせたことが
ないので、びっくりして動けなく
なっていました。

「助けて！ お母さん、
助けてー！」

お母さんの声を聞いて、
ジェニーはさけびました。



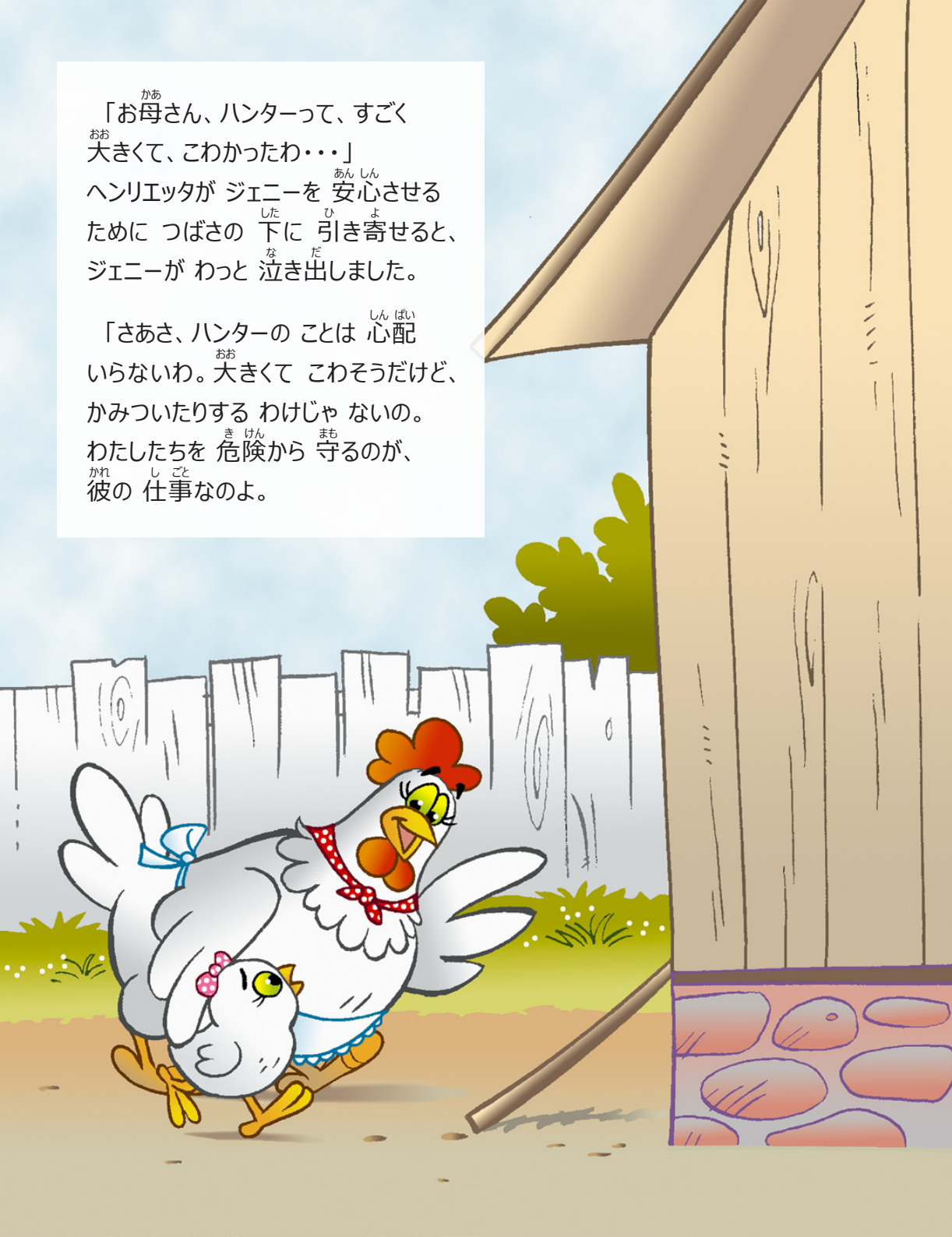
すると、お母さんのヘンリエッタがコッコッと鳴きながらやって
来ました。「そんなにうなるのはやめてちょうだい、ハンター！
ジェニーは、もう十分こわがってるわ。」そう言って、
ヘンリエッタはハンターをたしなめました。

ハンターは、ちょっととまどっている様子
でした。「おチビさんのジェニーが、また
まい子にならないようにって思っただけだよ。」

「ご苦労様。ここからは、わたしがめんどろ
見るわ。」と、ヘンリエッタ。

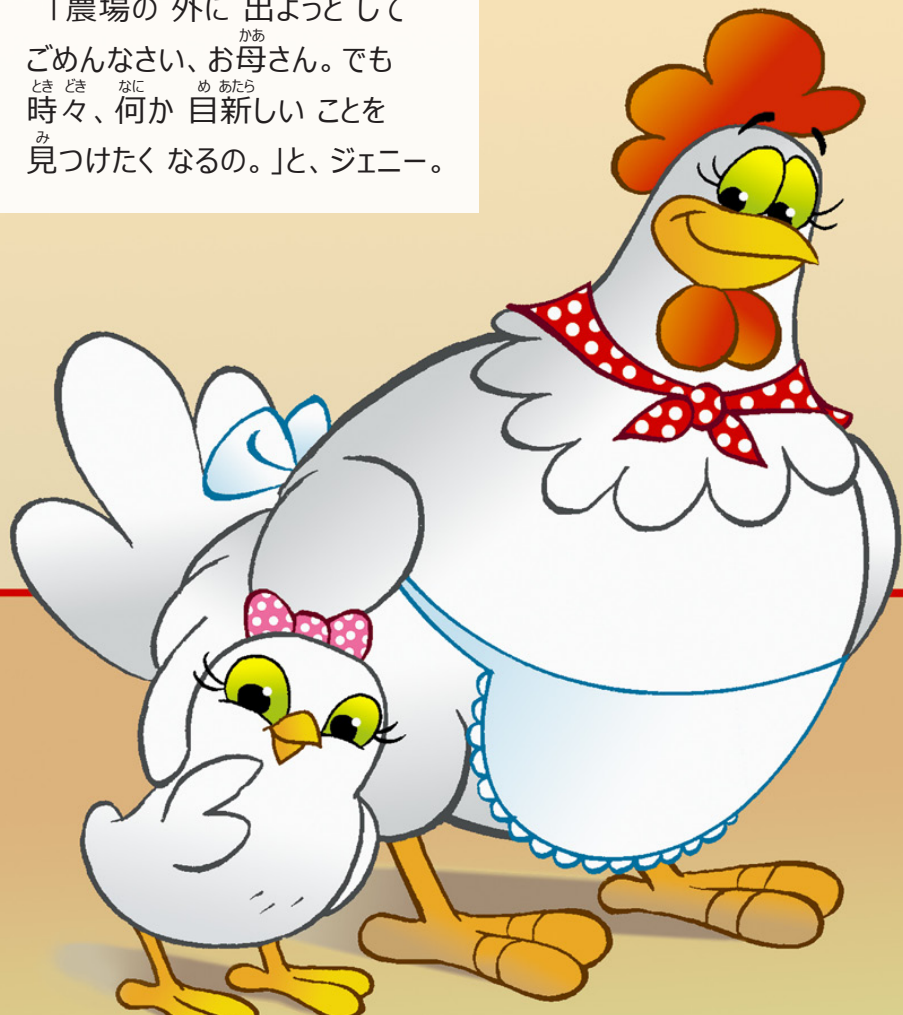
「お母さん、ハンターって、すごく
大きくて、こわかったわ・・・」
ヘンリエッタが ジェニーを 安心させる
ために つばさの 下に 引き寄せると、
ジェニーが わっと 泣き出しました。

「さあさ、ハンターの ことは 心配
いらないわ。大きくて こわそうだけど、
かみついたりする わけじゃ ないの。
わたしたちを 危険から 守るのが、
彼の 仕事なのよ。



農場の外には、危険がいっぱいあるわ。一人で外に
出たら、まい子に なったり、ケガしたり するかも しれないの。
もし あなたに 何か 起こったら、お母さんは とても 悲しく
なって しまうわ。」と、ヘンリエッタ。

「農場の外に出ようとして
ごめんなさい、お母さん。でも
時々、何か目新しいことを
見つけたくなるの。」と、ジェニー。



「分かるわ。でもね、農場の中でも、いろいろと新しいわくわく
するようなことを見つけられるって知ったら、びっくりするわよ。ただ、
ちょっと想像力が必要なだけなの。よかったら、わたしが小さかった
時に夢中にっていたいろんなことを教えてあげるわ。」

「それは楽しそう。わたし、冒険する
時、あぶない所に行かないように、
気を付けるわね。いつもわたしの
めんどろをよく見てくれて、ありがとう！」と、
ジェニーが言いました。



時には、どうしてこれやあれをしなくちゃいけないのか、
あるいは、してはいけないのか、分からないことがあるでしょう。
でも、お父さんやお母さんや先生の言いつけを守るのは、
安全でいる助けになるのです。